



2013年10月10日

各位

興和株式会社

Rhoキナーゼ阻害剤「K-115（一般名：リパスジル塩酸塩水和物）」の
国内での製造販売承認申請に関するお知らせ


興和株式会社〔本社：愛知県名古屋市／代表取締役社長 三輪 芳弘〕（以下、興和）は、Rhoキナーゼ阻害剤「K-115（一般名：リパスジル塩酸塩水和物、剤形：点眼液）」（以下、本剤）について、緑内障・高眼圧症を適応症として、本年10月10日に厚生労働省に製造販売承認申請を行いましたので、お知らせいたします。

本剤は、世界初の作用機序を有する緑内障・高眼圧症治療薬であり、Rhoキナーゼ（ROCK：Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase）を阻害することにより、線維柱帯-シュレム管を介する主流出路からの房水流出を促進することで眼圧を下降させます。

国内で実施した原発開放隅角緑内障及び高眼圧症の患者さんを対象とした臨床試験において、本剤は、単独での使用及び既存の緑内障・高眼圧症治療薬と併用での使用のいずれの場合でも、眼圧下降効果を示すことが確認されております。

興和は、本剤を市場に投入することで、患者さんに緑内障・高眼圧症治療薬の新たな選択肢を提供したいと考えております。

以上

 興和株式会社	広報第二部(東京)	東京都中央区日本橋本町 3-4-14 TEL:03-3279-7392
	本店(名古屋)	名古屋市中区錦 3-6-29

■緑内障・高眼圧症

緑内障とは、視神経と視野に特徴的変化を有し、通常、眼圧を十分に下降させることにより視神経障害を改善もしくは抑制しうる眼の機能的構造的異常を特徴とする疾患です。適切に治療されずに放置すると視野狭窄から失明に至る疾患であり、日本の中途失明原因の第一位（2005年）となっております。また、高眼圧症とは、視野狭窄が無いものの、眼圧が正常値を超えている病態です。

2000年～2002年に行われた詳細な緑内障疫学調査によれば、成人（40歳以上）の緑内障有病率は5.0%であり、その約8割（3.9%）は原発開放隅角緑内障（広義）と言われております。

現在、緑内障のエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は、「眼圧を下降すること」とされており、原発開放隅角緑内障（広義）に対する治療では、薬物治療が第1選択とされております。

■Rhoキナーゼ（ROCK：Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase）

Rhoキナーゼはタンパク質リン酸化酵素（プロテインキナーゼ）の1つであり、Rho-ROCK情報伝達に基づく多彩な細胞応答の制御機構に関与する酵素です。

■興和について

興和は、生活習慣病領域（脂質異常症・2型糖尿病・動脈硬化性疾患）、免疫・炎症領域（がん疾患・炎症性疾患）ならびに感覚器領域（眼疾患・聴覚平衡機能系疾患）を研究開発の重点領域と位置づけ、画期的新薬の創生・探求に努めており、医療現場でいまだ満たされていないニーズ（アンメットメディカルニーズ）にお応えすべく、積極的に研究開発活動に取り組んでまいります。